

広島大学平和科学研究センター

Newsletter

2012年



〒730-0053 広島市中区東千田町 1-1-89

tel: 082-542-6975 fax: 082-245-0585

email: heiwa@hiroshima-u.ac.jp

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa>

ごあいさつ

広島大学平和科学研究センター長
上 真一

原爆で焼き尽くされた広島のに、新制広島大学はフェニックスの如く再生しました。このような運命的な歴史を背負っているがゆえに、広島大学は「平和の希求」を大学の5大理念の最初に掲げ、教育・研究・社会貢献などの諸活動を展開しています。本学ではこの独自の理念を教育面で実践に移すことが長年の重要課題でしたが、2011年度から教養教育において「平和科目」の履修を必修化しました。入学生全員が「平和」について、戦争・原爆・貧困・飢餓・人口問題・環境などの様々なフィールドから学び、あわせて原爆ドームや広島平和記念資料館などのモニュメントを訪問し、平和に関するエッセイを書き、レポートとして提出しています。この平和教育の火を広島大学から決して消してはなりません。

さて、広島大学平和科学研究センターは1975年に全学的施設として発足以来、学内での平和科学に関する調査・研究を先導的に、そして中心的に進めてきました。21世紀に入り世界平和を脅かす事象は各地で多発しています。政治的・宗教的な国家間や民族間の対立のみならず、人口増加や気候変動などに基づく食糧不足や水危機などの人間の生存基盤が著しく脆弱化していることも、問題をより複雑にそして解決をより困難にさせています。その意味で、世界の恒久平和の達成に向けた本センターの果たす役割はますます増大していると言えます。

本センターが広島大学の平和科学に関する種々の活動の原動力となれるよう今後も努力して参りますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2011年度平和科学研究センター活動

シンポジウム

○平和科学研究センター第36回シンポジウム「広島、そして福島の復興」（2012年1月29日）アステールプラザ/広島市国際青年会館において開催

共催：一般社団法人広島平和構築人材育成センター

特定非営利活動法人ピースビルダーズ

後援：広島修道大学

<基調講演者>

山川充夫（福島大学学長特別補佐・教授／南相馬市民復興会議委員長）

斎藤紀（福島医療生協わたり病院医師）

<パネリスト>

田中章広（（社）原町青年会議所2012年度直前理事長／南相馬市民復興会議委員）

石丸紀興（株式会社広島諸事・地域再生研究所代表・研究員<前広島国際大学教授・元広島大学教授>）

下久保聖司（中国新聞記者）

衣山弘人（福島県南相馬市からの避難者）

<冒頭報告>

篠田英朗（広島大学平和科学研究センター准教授）

<総合司会>

井上実佳（広島修道大学准教授）

○第17回広島国際シンポジウム「世界の放射線被ばくとその影響」（2012年1月25日、26日）広島大学広仁会館において開催

共催：広島大学原爆放射線医科学研究所

広島大学文書館

研究会

第189回（2012年1月23日）研究会

葉佐井博巳（広島大学名誉教授）

「私の平和論－研究者として、そして入市被爆者として－」

第190回（2012年1月20日）研究会

Nayani Melegoda（コロンボ大学国際関係学部長・広島大学平和科学研究センター客員研究員）

“Statebuilding in Afghanistan”

第191回（2012年1月27日）研究会

Memunatu Pratt（シエラレオネ大学平和紛争学部長・広島大学平和科学研究センター客員研究員／大学院国際協力研究科客員教授）

“Sierra Leone’s Peacebuilding and Development – Prospects and Challenges”

出版物

○『広島平和科学』（第33号、2012年3月）

所収論文：

山下明博「世界遺産を巡る紛争における国際司法裁判所の役割」

村上登司文「地方自治体の平和啓発事業と学校教育との協同」

三上貴教「平和ランキングに基づく主要国比較から得られる示唆」

長谷川晋・上杉勇司「イラク治安部門改革（SSR）への民間安全保障会社（PSC）の使用に関する米軍と英軍の違いの考察－反乱鎮圧作戦の経験と正当性に対する理解の相違からの説明」

池田佳代・川野徳幸「グアム統合軍事開発計画の人種政治的側面に関する考察－グアム島公共水道システムを事例に－」

川野徳幸「【研究ノート】チェルノブイリ・旧プリピャチ住民への聞き取り調査備忘録：フクシマそして原発を考えるためにも」

篠田英朗「平和構築における現地社会のオーナーシップと国家建設のジレンマ－シエラレオネとスリランカの事例を中心にして－」

○研究報告シリーズ（和文）

No.46 川野徳幸・今中哲二・竹内高明（編）

『チェルノブイリ・旧プリピャチ住民へのインタビュー記録』

○研究報告シリーズ（英文）

No.26 Shinoda, H. (ed.) *Peacebuilding and the Ownership of Local Society in Sri Lanka*

所収論文：

Hideaki Shinoda, “The Sri Lankan Model of Peacebuilding? The Principle of Local Society’s Ownership and the Validity of Development Authoritarianism”

Nayani Melegoda, “Afghanistan Ten Years on: Statebuilding and the Elusive Peace?”

N.Wijegoonawardana, “Sri Lanka: Peace Building in Traumatized Society”

Maneesha S. Wanasinghe - Pasqual, “Importance of Building Trust in Post Conflict Reconciliation: An analysis of the Significance of Religious Zones of Peace in Sri Lanka”

Ajith Balasooriya, “Search for Common Grounds: Tamil Caste System as “A Spoiler” in Post-conflict Peacebuilding in Northern Sri Lanka”

No.27 Shinoda, H. (ed.) *Peacebuilding and the Ownership of Local Society in Sierra Leone*

所収論文：

Hideaki Shinoda, “The Sierra Leone Model of Peacebuilding? The Principle of Local Society’s Ownership and Liberal Democracy in Africa”

Memunatu Pratt, “The Sierra Leone Post-conflict Peacebuilding Experience”

“Youth Rural-Urban Migration in Sierra Leone: Freetown – Western Area”

Alex Sivalie Mbayo, “Gender Equality for Sustainable Peace in Sierra Leone: Analysis of Policy Frameworks, Strategies and Efforts by the United Nations and the Government of Sierra Leone (GoSL) to Enhance Equality for Women”

“Gender Equality – A Cornerstone for Development: Notable Insights from the Sierra Leone Case”

Yujiro Tokumitsu, “‘Arms for Development’ in Sierra Leone: Its Comprehensive-ness and Missed Lessons Learnt”

No.28 Imanaka, T., Kawano, N., Hoshi, M. (eds.) *Proceeding of the 17th Hiroshima International Symposium –Lessons from unhappy events in the history of nuclear power development –*

No.29 Osei-Hwedie, B.Z., Galvin, T., Shinoda, H. (eds.) *Indigenous Methods of Peacebuilding in Africa*

所収論文：

Bretha Z. Osei-Hwedie and Treasa Galvin, “Introduction: The Socio-Cultural Bases of Conflict, Conflict Resolution and Peacebuilding in Africa”

Jannie Malan, “Indigenous Dispute Resolution and Reconciliation: Past, Present and Future”

Kwaku Osei-Hwedie and Morena J. Rankopo, “Indigenous Conflict Resolution in Africa: The Case of Ghana and Botswana”

Lewis B Dzimhiri, “Indigenous and Modern Disputes Resolution Procedures: A Comparative Analysis of the Lomwe and Workplace Disputes Resolution Processes in Malawi”

Hideaki Shinoda, “The Principle of Local Ownership as a Bridge between International and Domestic Actors in Peacebuilding”

出版物の予定

- ・『広島平和科学』第34号
- ・研究報告シリーズ（和文）No.47